

私のすすめるこの1冊

多田 知正(産業技術科学科 准教授)

「仏教は心の科学」 アルボムツレ・スマナサーラ 著

この本には、私たちが「仏教」と聞いてイメージするもの、例えば、極楽浄土や恐ろしい地獄の描写、あるいは長い名前の仏様や、お経や法事などさまざまなしきたりなどは登場しません。この本に書かれているのは人が幸せになるための方法論です。それも「お祈りをしないと地獄に落ちる」だとか「念仏を唱えれば極楽に行ける」といった話ではなく、「今生きているこの世界で幸せになるにはどうすべきか」ということが語られています。人の心のしくみを解き明かし、心を高めるための具体的な方法が述べられます。そこには宗教につきものの「神様」も「奇跡」も「超能力」も一切出る幕がありません。

「心の科学」のタイトル通り、心について語るにあたり、まず「心とは何か」を定義することから始まります。しかし心を扱う以上、普通の科学のように客観的に実験して誰もが納得する結果を示すことはできません。そこで他の宗教なら「信じるものは救われる」となるところですが、お釈迦さまは違います。

ですから本来の仏教では、「信じる」とか「信仰」とかいった言葉は使いません。

「信じなさい」というのではなくて、「実証してみなさい」「自分で試してみなさい」と言うのです。

ただ盲信するのではなく、各自が自分の心で実験し、確認してみなさいというのです。これはやはり宗教というよりは科学に近いように思います。

2500年前のお釈迦さまの教えが、現代人である私たちにも違和感なく聞こえるのは、人間があまり変わっていないということでしょうが、面白いのは、最新科学で明らかになった事実とも不思議に合致することです。例えばこんな文があります。

心は「生きる」という機能であって、我々の一個一個の細胞で働いているのです。それでもあえて場所を限定せよというなら、細胞のレベルで生命は活動しているのですから、「心は全身にある」というしかありません。

少し前なら、心は「脳」にあるというのが一般的な考えでしたが、今では人の心は脳だけではなく、全身の神経から伝わる情報があって初めて成立するということが知られるようになってきました。その意味では確かに「心は全身にある」と言えます。

宗教はしばしば科学と衝突し、時にその発展を妨げてきたことはよく知られていますが、科学の最新の発見が仏教的思想と合致するというのは驚きです。ひょっとすると、本当にお釈迦さまは「すべてを知って」いたのかもしれない。

図書館からのお知らせ

第14回 京都教育大学 「うた」と「おはなし」の会を開催します！

京都教育大学附属図書館と幼児教育科平井研究室が合同で企画する会です。毎年2回開催しており、今回で14回目を数えます。春の開催では、うた、絵本、手遊び、パネルシアターなど楽しい企画がいっぱいです。大学の地域開放企画の一環で、毎回100名を越える参加者があり、好評を得ています。実習や授業の体験を活かした創造的な企画で、幼児の子どもさんと保護者が一緒に楽しめるものです。

★「母の日」の楽しい日に遊びにきてください★

とき：5月9日（日曜日）11：00～12：00

場所：京都教育大学 図書館2階 視聴覚室

対象：幼児（3～6歳ぐらい）と保護者

0～2歳児さんも大歓迎！

申込：保護者名、お子様のお名前（年齢）、連絡先電話番号を明記の上、ハガキ、FAX、E-mailで申してください。

お申込先及び連絡先

京都教育大学附属図書館 図書館グループ
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地
Tel (075) 644-8176、Fax (075) 644-8182
E-mail [tosomu\(アットマーク\)kyokyo-u.ac.jp](mailto:tosomu@kyokyo-u.ac.jp)



論文検索収集法講座を開催します！

レポート・論文の資料集めをもっと効率的にしませんか？

雑誌論文の検索データベース「CiNii(サイニー)」を使って、論文の探し方や入手の仕方を教える講座を開催します。パソコンを使った実習付きで、希望者には、論文資料を実際に手に取るまでを体験する「探索実習」オプションも追加できます。これからレポートや論文を書こうという方、ぜひご参加ください！

開催場所：附属図書館

所要時間：約30分（探索実習オプションを付けると、計60分程度）

開催日時：5月20日（木）11:30～

5月25日（火）15:00～

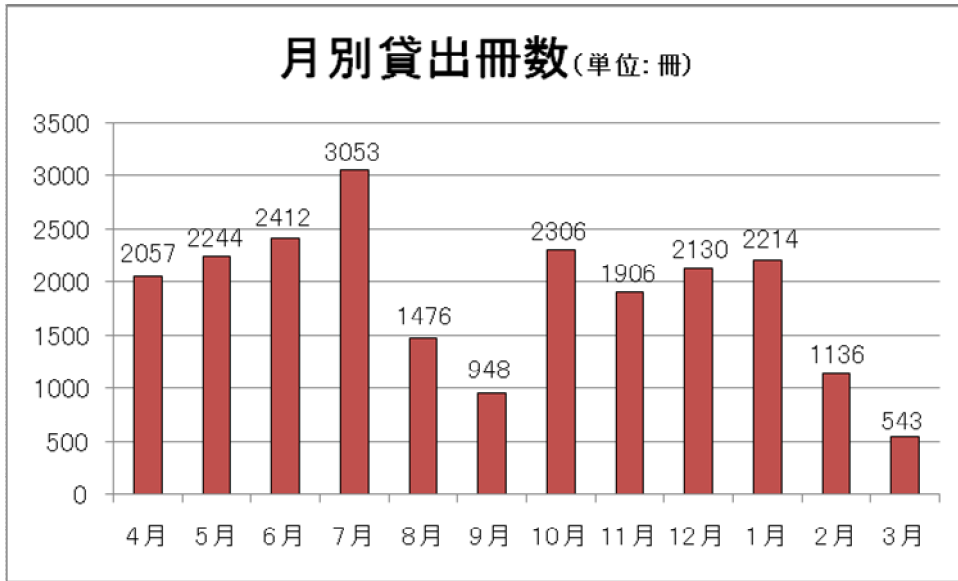
5月27日（木）11:30～

※事前申込不要。ただし各回先着4名まで。

上記時間以外での個別申込、ゼミ単位での申込等、相談に応じます。まずはお問い合わせください。

問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp 情報サービス担当：角野

2009年度図書館利用統計



2009年度の
年間貸出冊数は

22425 冊

でした。
2010年度も
たくさん本を
読んでください



2009年度によく借りられた本 (教科書・就職支援図書を除く)

書名	著者名	出版社	配置場所	請求記号
流星の絆	東野圭吾著	講談社	軽読書	H 55
生成を原理とする 21 世紀音楽カリキュラム : 幼稚園から高等学校まで	日本学校音楽教育実践学会編	講談社	南館1階	375.76 N 77
微分積分	和達三樹著	岩波書店	南館1階	413.3 W 12
ストレッチング : アスリートケアマニュアル	小柳磨毅ほか著	文光堂	南館2階	780.19 KO 97
不登校・ひきこもりと居場所	忠井俊明ほか編著	ミネルヴァ書房	南館1階	371.4 TA 16
音楽をつくる可能性	ジョン・ペインター著	音楽之友社	南館1階	375.76 P 29
源氏物語(新編日本古典文学全集 20 巻)	紫式部著	小学館	南館2階	918 SH 69 20
コダーイ・システムとは何か : ハンガリー音楽教育の理	フォライ・カタリン ほか著	全音楽譜出版社	南館1階	760.7 KA 82
天使と悪魔 上下巻	ダン・ブラウン著	角川書店	軽読書	B 77 06

興味を引かれた本があれば、ぜひ図書館で借りてみてください。
もう読んだという方は、その著者の別の本も読んでみてはいかがでしょうか？

～ 図書館開館スケジュール ～

2010年 5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
						▲
2	3	4	5	6	7	8
休	休	休	休	●	●	▲
9	10	11	12	13	14	15
休	●	●	休	●	●	▲
16	17	18	19	20	21	22
休	●	●	●	●	●	▲
23	24	25	26	27	28	29
休	●	●	●	●	●	▲
30	31					
休	●					

2010年 6月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		休	●	●	●	▲
6	7	8	9	10	11	12
休	●	●	●	●	●	▲
13	14	15	16	17	18	19
休	●	●	●	●	●	▲
20	21	22	23	24	25	26
休	●	●	●	●	●	▲
27	28	29	30			
休	●	●	●			

<カレンダーの見方>

日付	9:00~21:00
●	
日付	9:00~17:00
▲	
日付	休館日
休	

5月12日は館内整理日のため休館
6月1日は創立記念日のため休館

“格標示の意味”

二枝 美津子 (英文学科 教授) 京都教育大学紀要 No.116 p.37-52 2010年3月

格変化というと英語に親しんでいる者は、人称代名詞の格変化を思い起こすであろう。英語の1人称の代名詞は、Iが主格で、myは所有格、meは目的格というように格変化をする。英語では普通名詞はこのような格変化をしないが、ドイツ語やラテン語など世界の多くの言語では名詞は格変化をおこす。

普通、主格は主語を、対格は目的語であることなど文法関係を示すものとされている。認知文法の視点にたつて、格標示をみると、格は本来、意味(抽象的でスキーマ的である場合も含め)を示すものであって、その結果、二次的に文法関係を示すものであること考えることができる。道具格、所格、奪格など周辺の格は意味と結びついているのは容易に推測できるが、主格など主要な格になると意味との繋がりはわかりにくい。

格変化の種類には大別すると、主格/対格型と能格/絶対格型がある。前者の型であれば、主格はいつも主語になり、対格は目的語を示すが、能格/絶対格型の言語も考慮に入れると、主語を示すのは、主格、能格、絶対格と、目的語も対格と絶対格がある。そこには文法関係と格の間には一貫性は見られない。注目されるのは、両方の型において、無標の格(主格・絶対格)は形態上ゼロで分布も自然であるということである。有標の格(対格・能格)には格屈折辞が付くことで無標の格とは異なることを示している。それでは、格は何を示すものであろうか。ここで自然経路の考え方が重要になる。動的な自然経路の考えが優勢な言語では、自然経路(エネルギーの移動、時間、語順、際立ち)の出発点は、無標の主格で表わされ、結果的に自動詞文と他動詞文の主語になる。一方の自律/依存の自然経路が優勢な言語では、自律概念の出発点は絶対格となり、結果的に自動詞文の主語と他動詞文の目的語になる。有標の対格と能格はそれぞれの自然経路の出発点ではないことを格標示で示している。それぞれの経路に沿うと、主格と能格は動作主・使役者を、対格は被動作主、絶対格は対象をプロトタイプとして意味することが明らかになる。格は本来そのような意味を表すものであったが、結果的に文法関係を示すようになったと考えられる。

全文は京都教育大学紀要116号に掲載されています。

後日、京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>に掲載予定です。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

下記のQRコードからもアクセスできます



京教図書館 News No.115 (2010年5月号)

発行日:平成22年5月6日

編集発行:京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp



京都教育大学